

大阪府立 国際児童文学館

発行 財団法人大阪国際児童文学館
〒565-0826 吹田市千里万博公園10-6
大阪府立国際児童文学館内
TEL (06) 6876-8800 FAX (06) 6876-8686
http://www.iiclo.or.jp



REPORT

No. 25 2006.8

—2005年度活動報告— 1面 特集 / 2面 資料 / 3面 上段:研究 下段:国際 / 4面 上段:振興 下段:その他・おしらせ

財団法人大阪国際児童文学館 理事長 松居 直
大阪府立国際児童文学館は
まさに日本の至宝というにふさ
わしい存在です。この館の設立
と運営につくされた大阪府の貢
献に対して、心から敬意を表す
るとともに、深く感謝する次第
です。



今般、計らずも中川正文前理事長の志しを引きつぎ、その運営の重責を担うこととなり、光栄に感ずるとともに責任の重大さに圧倒される思いがいたします。

大阪が十九世紀後半から二十世紀の前半にかけて、わが国の政治・経済・社会・文化の変革と近代化に果たした先見性はみごとなものがあります。その延長線上に、大阪府立国際児童文学館があります。この館が日本の児童文学、児童出版文化、児童出版美術に関する貴重な資料の収集と保存、調査と研究に果たした役割の大きさは計り知れません。ここには過去と現在を踏まえて未来を洞察する歴史的価値をもった、国宝というにふさわしい資料が揃っています。

その成果の上についで、更なる資料の発掘と収集に務めるとともに、その完璧な整理と保存、分析と研究の機能の一層の充実を目指さねばなりません。同時にまた子どもたちが生きる未来像の探求に努めねばなりません。

そのために必要な研究組織と施設の強化は必須です。またミュージアム機能の整備や国際交流についても、国際子ども図書館や日本国際児童図書評議会(BBCL)などと緊密に連携し、わが国の子ども文化のナショナルセンターとして、国内外に向けての情報発信の役割を担うべきです。それには国の積極的な理解と支援を求めねばなりません。

課題は山積していますが、館員が一丸となって充実した活動ができるように、全員で組織運営に取り組みたいと念願しています。

昨年7月から中川正文先生の後任として向川が館長に就任しました。今年度から児童文学館は指定管理者制度がとりいれられ、新しい出発となります。館の発展のために全力を尽くしたいと思っています。

館の歴史を振り返りますと、スタッフ数が減るなどずいぶんと変わりました。一方で多くの機関や人のおかげで、資料は質量ともに充実し、児童文学専門資料館として内外に誇ることができる存在となりました。今後はそれらの貴重な資料をさまざまな角度から調査し、その結果を公開することによって、児童文学の研究と普及に寄与したいと思っております。

子どもと本を結ぶ事業や国際事業など、館は多くの事業に取り組んでいますが、職員とともに力を尽くす所存です。いっそうのご支援をお願いします。

財団法人大阪国際児童文学館 館長 向川 幹雄



国際グリム賞 マリア・ニコラエヴァ氏が授賞

国際グリム賞は、国際的分野で児童文学界に貢献した研究者に対し、隔年で贈られる賞です。この事業は、財団法人金欄会との共催事業として実施しております。

第10回受賞者は、比較児童文学の優れた研究者であり、児童文学史、ファンタジー、絵本論など注目すべき刺激的な著作を多数発表されている、ストックホルム大学教授、マリア・ニコラエヴァ博士(写真)に決定しました。

11月13日(日)に当館講堂で行われた記念講演会「児童文学における『力』—誰のために?何のために?—」では、児童文学とは子どもを教化するためにあるのか、子どもの楽しみのためにあるのかといった従来の議論を、『長くつ下のピッピ』をはじめ、数多くの児童文学作品を引用しながら、「主体」「声」「力」といった視点から切り込んだ、示唆に富んだものとなりました。



講演の後には、日本イギリス児童文学学会研究大会プログラムのひとつとして、ニコラエヴァ博士と三宅興子氏の対話の時間「ニコラエヴァ博士に聞く」がもたれました。会場からの質問も汲み上げられ、ニコラエヴァ博士の視点や解釈、講演内容をより深く理解することができるとともに、刺激的なひとときとなりました。